

卒業研究の書式見本

余白は上が 35mm, 左右下が 30mm とする.

豊谷研究室の卒業論文は 1 名の論文の場合 80 枚以上とする

MS 明朝体 16 ポイント

その下は 16 ポイントで 2 行改行

平成 20 年度 卒業論文

MS 明朝体 18 ポイント

その下は 18 ポイントで 4 行改行

Web サービスによるマーケティング戦略

MS 明朝体 12 ポイント

その下は 12 ポイントで 2 行改行

日本大学 生産工学部 管理工学科

ビジネス・マネジメントコース

豊谷研究室

X6001 田中一郎

MS 明朝体 16 ポイント

上の部分は 10.5 ポイントで 10 行空ける

見出しは MS 明朝体 18 ポイントで太字
(見出しの次は 10.5 ポイントで 2 行空ける)

目次

本文や目次は MS 明朝体 10.5 ポイント

第 1 章 序論	3
1.1 目的	3
1.2 研究方法	3
1.3 論文の構成	3
第二章 ネットワークの基礎	5
2.1 OSI 基本参照モデル	5
...	
参考文献	7

上の部分は 10.5 ポイントで 10 行空ける
(見出しの次は 10.5 ポイントで 2 行空ける)

各章の見出しは MS 明朝体 18 ポイント
(見出しの次は 10.5 ポイントで 2 行空ける)

第 1 章 序論

1.1 目的

現在、ネットワークを軸
極めて重要な社会
ウイルス、不正アク
支障を来すだけでなく、個
引先を含むバリューチェ
サービスのエンドユーザへの
た IT 社会への悪影響も発
つまり、情報セキュリティ
行に不可欠な取り組みの一
える定量的なデータの提供と、
セキュリティ対策を促進することが求められている。

各節の見出しは次のように章、節、項とする

第 1 章

1.1

1.1.1

1.1.2

1.2

第 2 章

2.1

かつ、MS 明朝体 10.5 ポイントで太字にする

本卒業研究の目的として、社会全体が高度に情報化された現在、情報化に潜む危険という
ものを知らずにして社会に出ることは非常に危険である。そのため、自らハッキング技術
を学ぶことによ

本文や目次は MS 明朝体 10.5 ポイント

句読点は横書きであるから、
、や。ではなく、
、や。を使う

1.2 研究方法

文献から得た知識を基に、ゼミ内のコンピュータを利用して
調査・実証を試み、その結果を
調べる。なおこの研究においてはウィンドウズを研究対象として使用している。

1.3 論文の構成

上記の目的を達成するために、必要であろうネットワークに関する基礎知識を第二章に

展開する。

第三章にはセキュリティを考慮する上での大きな障害となる不正アクセスについて述べる。それら現状と対策についてなどを第四章，第五章に展開する。

第六章では実際にハッカーが行うハッキング技術を体験してみる。さらにそれらについて考察を行う。

第七章では，本論の統括としての考察と今後の対応策を述べる。

語調は，ですますではなく，である調で記述する。
また 「と思う，感じた」ではなく「と考えられる を示す」
など，言い切りの文章にする。
内容に不安があれば，きちんと調べて，自信を持って書く。
句読点は横書きであるから 、や。ではなく ， や。を使う。

上の部分は 10.5 ポイントで 10 行空ける
(見出しの次は 10.5 ポイントで 2 行空ける)

各章の見出しは MS 明朝体 18 ポイント
(見出しの次は 10.5 ポイントで 2 行空ける)

第二章 ネットワークの基礎

不正アクセスやハッキングを行う上で、ネットワークに対する理解は欠かせないものである。そこでまずネットワークについて述べる。

インターネット上のWEBサイトにアクセスすることは今日、コンピュータ利用の一般的な行為である。利用によるデータのやり取りが

2.1 OSI 基本参照モデル

OSI (Open System Interconnection) Organization Standardization ; ネットワークアーキテクチャのモデルに基づく機能(データの取り扱い)の標準化である。OSI 基本参照モデルの最大の特徴は、階層化をすることによって、

- (1) 各層の機能が明確になった
 - (2) 各層の機能の独立性が高くなった
- といったメリットを得られた。ネットワーク機器、OS を組み合わせても、他コンピュータとの通信ができるようになった。しかし、製品同士の相性などで必ずしも完全とは言えないが。

OSI 基本参照モデルは全部で7層に分かれており、ネットワークの専門家でなくても、この OSI 基本参照モデルをしっかりと理解しておく、ネットワークトラブルが発生したときに、原因究明の役に立つことが多い。

OSI 基本参照モデルは、下の表のような7層構造になっている。それぞれの層は、独立し

各節の見出しは次のように章、節、項とする

第 1 章 . . .

1.1 . . .

1.1.1 . . .

1.1.2 . . .

1.2 . . .

第 2 章 . . .

2.1 . . .

かつ、MS 明朝体 10.5 ポイントで太字にする

本文や目次は MS 明朝体 10.5 ポイント

て機能しているが、その上下の層に対するインターフェースは規定されている。 私たちが普段利用しているメールクライアントやブラウザなども、このモデルに従って通信をしている。

表 1. OSI 基本参照モデルと機能

7.アプリケーション層 (Application)	アプリケーションに対応したプロトコル.
6.プレゼンテーション層 (Presentation)	データの表現形式や通信ビット数に関する規定. 具体的には、データの表題は、連番と説明タイトルを上側に記載する
5.セッション層 (Session)	通信の確立、維持、解放に関する規定. 頼で MS 明朝体 10.5 ポイント
4.トランスポート層 (Transport)	送受信の確認やアプリケーションの識別に関する規定.
3.ネットワーク層 (Network)	通信経路の選択や識別アドレスに関する規定.
2.データリンク層 (Data Link)	通信路の確保やエラー訂正に関する規定.
1.物理層 (Physical)	物理的な回線や機器類, 電気信号に関する規定.

第 5~7 層は、私たちがネットワークを利用する上で直接触れることが多い層である。 普段我々が実際見ているこの HTML ページも、HTTP プロトコルという第 5~7 層で定められた決まりの中で動作している。



図 1. Web ブラウザ (Internet Explorer)

上の部分は 10.5 ポイントで 10 行空ける
(見出しの次は 2 行空ける)

各章の見出しは MS 明朝体 18 ポイント
見出しの次は 2 行空ける

参考文献

- [1] 独立行政法人 情報処理推進機構 セキュリティセンター, 中小企業の情報セキュリティ対策 確認手法に関する実態調査, IPA 独立行政法人 情報処理推進機構, 2008 年
- [2] 独立行政法人 情報処理推進機構 セキュリティセンター, 情報漏洩発生時の対応ポイント集, IPA 書籍の場合:
[番号] 著者(or 法人名), 題目, 出版社, 出版年, ページ
- [3] 独立行政法人 情報処理推進機構 セキュリティセンター, 情報セキュリティ対策 7 年 URL の場合
- [4] 経済産業省 組み実態調査 2007 年 [番号] 著者(or 法人名), 題目, 参照した年, URL
番号の並び順は, 論文で参照する順序が望ましいが, 古いものから年代順でも良い
- [5] 経済産業省 2007 年 書体は MS 明朝体 10.5 ポイント
- [6] 特定非営利活動法人 田中太郎, 鈴木次郎・・・とするか、田中他 と記載する
(IPA/ISEC), 2006 年
- [8] Server Architecture , TCP/IP の基礎知識, 2002 年,
http://win.kororo.jp/archi/tcp_ip/tcp_ip.php